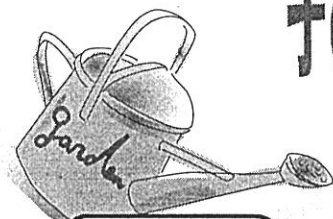





# 子どもの「主体性」と「地域愛」を育むために、手を取り合いましょう



園・学校

## 『育てたい子ども像』

地域

- あいさつができる子 
- 挨拶、返事ができる子どもを育てましょう。
- わかる授業、学ぶ楽しさを感じられる授業をしていきましょう。
- 心の教育に力を注ぎましょう。
- 健康の増進、体力の向上を図りましょう。
- 相手の気持ちを大切にする子 
- 子どもの安全確保に協力しましょう。
- 地域ぐるみで「あいさつ」を推進しましょう。
- 運動を楽しむ子 
- 子どもや家族と地域がふれ合う機会を充実させましょう。
- ふるさとの理解を深める学びの機会を作りましょう。
- ものこをよりよく考える子
- 地域を愛する子

家庭

家庭で根をはり、学校から栄養を受け・地域の温かい光を浴びて育ち、社会で実が実る

- あいさつ、返事ができる子どもを育てましょう。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」で生活リズムをつくりましょう。
- 自分を大切にできる子どもを育てましょう。
- 家族のふれ合いを大切にしましょう。

渋川市 生きる力を育てるための学校・家庭・地域三者連携推進協議会

渋川市教育委員会 令和元年5月

# 令和元年度

## 渋川市生きる力を育てるための学校・家庭・地域 三者連携推進協議会について

渋川市教育委員会

### 1 ねらい

学校・家庭・地域の三者が連携をとりながら、幼児児童生徒の生きる力を育てるためにはどのような取り組みが有効であるか協議し、その方向性を見出す。

(設置要綱 第1条より)

### 2 目指す姿

子どもの「主体性」と「地域愛」を育むために、手を取り合しましょう

### 3 育てたい子どもの姿

- あいさつができる子
- ものごとをよりよく考える子
- 相手の気持ちを大切にできる子
- 運動を楽しむ子
- 地域を愛する子



### 4 組織図

#### 生きる力を育てるための学校・家庭・地域 三者連携推進協議会

**推進委員：**園・学校部代表 家庭部代表 地域部代表 公募による推進員 事務局  
基本方針の策定や年間活動計画の立案及び協議会の運営に関することについて協議する



#### 代表部会（必要に応じて開催）

各地区部会の学校・家庭・地域の代表者が集まり、各地区の課題や特色ある活動について意見交換や情報交換を行い、協体制の確立を図る。

**地区部会：**地域の実態や課題に応じて具体的な三者連携の実践を行う

渋川中地区 園・学校部 家庭部 地域部	渋北中地区 園・学校部 家庭部 地域部	金島中地区 園・学校部 家庭部 地域部	古巻中地区 園・学校部 家庭部 地域部	伊香保中地区 園・学校部 家庭部 地域部
子持中地区 園・学校部 家庭部 地域部	赤城南中地区 園・学校部 家庭部 地域部	赤城北中地区 園・学校部 家庭部 地域部	北橋中地区 園・学校部 家庭部 地域部	

## 令和元年度 三者連携推進事業推進計画

### <令和元年度の事業計画について>

#### 1 市共通テーマ「子どもの安全安心」の取組

- 子どもが安心して生活できるよう、学校・家庭・地域で連携した取組を推進する。
- 地区部会では、危険を予測する能力を高めたり危険を回避する能力を養ったりするために、子どもたちが安全安心について主体的に考えていくことができる取組を工夫する。

#### 2 「あいさつ」ができるひとづくりを推進するための取組

- 学校や地域の事業を通して、率先してあいさつをする「こころ」を育成する。
- 地区部会では、日常の基本であるあいさつをだれとでもできるひとづくり、人間関係づくりをめざし、また、あいさつを通して地域の輪を広げ、お互いを尊重しあえる地域づくりを推進するための取組を工夫する。

#### 3 子どもの「主体性」と「地域愛」を育むための取組

- 学校・家庭・地域のどこにでも居場所があることを実感できるよう自己有用感を育むとともに、渋川のよさを知りふるさと渋川を誇りに思う「こころ」を育成する。
- 地区部会では、「育てたい子どもの姿」の実現に向けて、学校・家庭・地域で共通認識のもと連携を図り、子どもの「主体性」と「地域愛」が育まれるように取組を工夫する。

### <開催日・内容について>

開催日	事業名	内 容
5月21日(火)	推進委員会 (第二庁舎 201)	○年間基本方針の策定 ○年間計画の立案及び運営の協議
6月～	地区部会 (各中学校地区)	○各地区部会の三者連携推進事業計画の策定 *組織作り
6月26日(水)	渋川中地区	*各中学校地区で「育てたい子どもの姿」について協議
7月10日(水)	渋川北中地区	
6月25日(火)	金島中地区	*「子どもの安全安心」に関する取組について協議
6月17日(月)	古巻中地区	
6月7日(金)	伊香保中地区	*「あいさつ」ができるひとづくりを推進するための取組について協議
6月28日(金)	子持中地区	
7月9日(火)	赤城南中地区	*子どもの「主体性」と「地域愛」を育むための取組について協議
7月11日(木)	赤城北中地区	
6月26日(水)	北橋中地区	*その他、各地区の計画に沿って開催
通 年	○各地区ごとの連携推進事業の実施 ○園・学校だよりによる周知	随時、園・学校より
2月18日(火) 予定	推進委員会 (第二庁舎 201)	○今年度の事業報告及び次年度に向けて

平成30年度 各地区部会の取組の概要

各中学校地区	育てたい子どもの具体像	主な取組内容	市共通テーマの取組「子どもの安全安心」
渋川中地区	○地域の一員として地域を大切に する子 ○将来の夢や希望をもち 努力する子	<input type="checkbox"/> 地域行事への参加促進 ・ポイントラリーの継続実施 <input type="checkbox"/> あいさつ運動 <input type="checkbox"/> キャリア教育の推進 等	・通学路点検 ・安全マップ改訂 ・ボランティア活動 ・福祉体験学習 等
渋川北中地区	○地域を愛する子（地域 から愛される子）	<input type="checkbox"/> 豊かな心の育成事業 ・あいさつ運動 <input type="checkbox"/> 規範意識の醸成事業 ・異年齢交流活動 <input type="checkbox"/> 基本的生活習慣の形成事業 ・「あじさい運動」の推進 等	・安全点検、防犯パトロー ル、街頭補導の実施 ・子どもを取り巻くインタ ーネット関連事業 調査や講演会の実施 等
金島中地区	○地域の一員として地域 を大切にす る子 ○規則正しい 生活を送る 健康な子	<input type="checkbox"/> 心と体のはぐくみ推進事業 ・あいさつ運動 ・早寝・早起き・朝ご飯運動 ・読書活動の推進 ・学校地域連携の清掃作業 <input type="checkbox"/> 地域参加推進事業 ・地域学習・職場体験 ・地域行事への参加 <input type="checkbox"/> 子どもの安全見守り事業 <input type="checkbox"/> 広報活動推進事業 ・携帯・スマホ・家庭用ゲーム機器に 関する啓発活動 等	・地区内パトロール ・「子ども安全協力の家」 としての活動 ・不審者情報の共有と予防 等
古巻中地区	○地域の一員として地域 を大切にす る子	<input type="checkbox"/> 地域行事サクセスプラン ・「リーフレット」作成と配付 ・各種諸行事への参加促進 (世代間ふれあい事業、古代米づくり 体験、中学生と話し合う会、古巻地 区納涼祭、市民運動会、古巻地区元 旦マラソン、公民館祭り、世代間交 流餅つき大会 等) <input type="checkbox"/> 安全安心な地域の推進 等	・通学路安全点検 ・携帯電話及びインターネ ットの啓発チラシの配布 ・道徳・学級活動の充実 ・子ども主体のいじめ防止 の取組 等
伊香保中地区	○地域の一員として地域 を大切にす る子	<input type="checkbox"/> 伊香保の町をきれいにする活動 ・園、小、中学生によるゴミ拾い <input type="checkbox"/> 花いっぱい運動 ・花壇の手入れ、花苗を育て公共施設 等への贈呈 <input type="checkbox"/> スケート教室・記録会・発表会 <input type="checkbox"/> 伊香保まつり ・伊香保まつりについての講話、樽み こし担ぎ、じゃもじの絵付け ・ゴミ拾い登校 等	・伊香保町をきれいにする 活動 ・通学路の危険箇所点検 ブロック塀の点検 ・いじめ防止活動 ・SNS等情報通信端末や 正しいネットの使い方 ・登下校の安全対応 等

各中学校地区	育てたい子どもの具体像	主な取組内容	市共通テーマの取組「子どもの安全安心」
子持中地区	○やさしく元気な地域の子 ・人の心の痛みが分かる子 ・体力が身に付いている子 ・地域を大切にしている子	□豊かな心を育てる推進事業 ・読書好きな子、あいさつのできる子、思いやりの心を育成、「家庭学習のすすめ」の作成と啓発 □体力づくり推進事業 ・元気アップカード・体力向上プランの活用 ・地域の体育的行事等への参加 □地域参加推進事業 ・地域行事への積極的な参加 ・地域学習と地域連携 等	・安全マップ作成 ・子ども安全協力の家確認 ・各種避難訓練、交通安全教室、通学路点検 ・交通安全街頭指導 ・安全安心パトロールボランティアによる巡回 等
赤城南中地区	○地域とのふれあいを通して将来の夢や希望がもてる子	□地域ボランティア活用事業 ・歌舞伎指導、囲碁・将棋の指導、菊・瓢箪飾り作りの指導、文化財の話や読み聞かせ □地域行事活性化運動 ・地域行事への積極的な参加（小学校歌舞伎クラブによる演技披露、中学生のボランティア） □環境美化運動 ・校区内花いっぱい運動 ・PTA親子奉仕作業 等	・交通安全教室の実施 ・通学路点検 ・地区内パトロール ・いじめ防止活動の推進 ・各種避難訓練 ・引き渡し訓練の実施 等
赤城北中地区	○地域の一員として、地域のよさや特色を知り、地域に関わり、地域を大切にしている子	□地域のよさや特色を知る事業 ・基本的生活習慣の確立（あいさつ運動） ・ふるさと学習 □地域のよさや特色に関わる事業 ・健全育成活動（ノーメディア運動） ・地域の伝統行事を継承して発展させるために考え行動する活動 □地域のよさや特色を大切にしている事業 ・花いっぱい運動の実施 ・環境美化活動の実施 等	・あいさつ、声かけ運動 ・不審者への対応 ・通学路の安全点検 ・子ども安全協力の家の設置 ・下校時の安全確保 ・自然災害での安全確保 ・避難訓練の実施 等
北橋中地区	○ふるさとを好きになる子ども（地域の一員として地域を大切にしている子）	□地区、地域行事の活性化 ・古里まつり、竹の里フェスティバル等 □子どもたちの健康増進・体力向上 ・「早寝・早起き・朝ご飯」運動 □北橋地区生涯学習をすすめる会 ・幼保小中情報交換会、生涯学習振興大会等 □子ども生き生き絆サポーターの活用 ・人材データの情報を共有と活用等 □健康教育総合推進事業の成果の継続 ・北橋町地域学校保健委員会の開催	・自治会連合会との連携 ・あいさつ運動 ・安全マップを活用した通学路点検 ・防犯ステッカー作成 ・防犯安全パトロール ・携帯電話やインターネットの利用指導 ・通信機器使用に関する決まりを定め、家庭に周知 等

## コミュニティ・スクール導入研修会・校長研修会について

## 1. 開催日時

9月6日(金)

①10:00～12:00 コミュニティ・スクール導入研修会

②14:00～16:40 校長研修会

## 2. 講師：増淵広美 先生

文部科学省 コミュニティ・スクール推進員 (CSマイスター)

神奈川県総合教育センター教育相談部教育相談課教育相談専門員

元神奈川県立市ヶ尾高等学校 校長

## 3. 研修会のねらい

社会に開かれた教育課程の実現と地域と学校の連携・協働に向け、文科省の講師による各地の先進的な事例や、関係法令などを踏まえた説明等を行い、コミュニティ・スクール開設に向けて今後どのような計画、準備が必要かについて情報を収集するための研修を行う。

## 4. 参加者

①コミュニティ・スクール導入研修会：市内各小中学校 教頭、教務、教諭

②校長研修会：市内各小中学校長

## 5. 研修の内容

コミュニティ・スクールを生かした学校づくりという内容で文科省コミュニティ・スクール推進員、元高等学校校長 増淵広美先生より講義をいただいた。

講師の元校長という立場で進めたコミュニティ・スクール導入の流れ、導入した結果、どのような効果、成果が現れたかなどについて実践例を踏まえながら講義いただいた。

①コミュニティ・スクールを導入するには学校運営協議会を立ち上げる必要があること。

②学校運営協議会を設置したことにより地域、保護者との連携が強まったこと。

③委員の選定についての留意事項等。特に委員の選定については校長自らが人選をすること、そして校長の意を汲む人物を人選することが大切である。

の内容を核としてコミュニティ・スクール導入までにしなければならないことなどを整理いただくことができた。

## 6. 研修の参加者より

・今までも学校から地域に協力を呼びかけたり、逆に声をかけていただいたりしているような活動に取り組んできたが、それをより行いやすくするためのものであると感じた。

- ・コミュニティ・スクールについて正しい知識と理解は学校現場だけでなく地域住民、保護者にも理解していただけるようにしていく必要がある。
- ・学校だけが中心になることなく、地域、家庭、各種機関がそれぞれ主体的に取り組み、協働していくことが大切だと思う。
- ・学校運営協議会の意義や委員の選定が重要であることをよく理解できた。
- ・講師の管理職経験者として、校長の立場をよく理解した上での講義だった。
- ・通常の業務でも多忙化が解消されない中、新しい取り組みを始めることにより学校の負担が増えることが考えられる。
- ・コミュニティ・スクールについての効果や意義については理解できたが、これを行う上での時間や準備のことを考えると教職員の負担や勤務時間等で心配な点が多い。
- ・内容については理解し、すばらしい成果を上げているとは思ったが、人材面や校内で誰が中心となり、進めていくべきか等、現実的な課題も感じる。
- ・本市としては三者連携推進事業をもっと充実させていくことなどを通して段階的に進めていくのがよい。
- ・本市ではすでに三者連携推進事業としてコミュニティ・スクールと同様な取り組みは進められているのではと感じた。新しいことを立ち上げるよりも現在行っている三者連携事業など、地域と共に進めている事業を大切にすることも必要では。

※上記のような意見が出た。本市としてはすでに三者連携事業として長い時間をかけて取り組んでいる同様なシステムがあること、三者連携事業では充て職ではあるものの、その地域をよく知る人物で人選がされている。しかし、コミュニティ・スクールの学校運営協議会の委員は校長自らが人選することが重要との説明があり、現在渋川市で行っている三者連携事業の運営方法とは異なることから、コミュニティ・スクール導入にあたっては慎重に地域への説明を行っていく必要がある。